

富士フイルム(株)富士宮工場 サステナビリティレポート 2016

ご挨拶

富士フイルム富士宮工場は世界文化遺産富士山の南西山麓に位置し、清澄な空気、豊富な湧水の恩恵を受けて操業しております。1963年の創立以来、地域やステークホルダーの方々にはご理解とご支援を賜り、深く感謝しております。

私たちは生産活動に伴う環境への影響を正しく認識し、環境を大切に作る風土を先人から引継ぎ、教育・伝承するとともに、情報を積極的に公開し、環境保全に日々努力して参りました。

これからも私たちは廃棄物削減と適正処理によるゼロエミッションの継続、使用エネルギーの一層の削減、さらに化学物質の適正管理などに全力で取り組みます。また、地域の皆さまとの意見交換の場である環境対話集会の毎年開催、工場を流れる清水川の清掃作業、「富士宮市環境フェア」への出展や、各種公的環境団体の会員としての活動などを通じて、積極的なコミュニケーションに努め、引き続き地域の皆さまとの共生を図って参ります。

2016年9月
富士フイルム(株)
富士宮工場長

藤倉 大介



*このレポートは、

富士フイルム(株)富士宮工場(関連会社含む)の環境・安全及び地域とのコミュニケーションについて、2015年度の活動や実績をまとめたものです。

対象期間:2015年4月~2016年3月



平成28年度 富士宮事業場 基本方針

着実かつ大胆に 攻める!

~ 目標:リードタイム半減! ~

安全: 危険を恐れ、危険を指摘し、自分と仲間を守ろう!
~ 決まり事・ルールを守り守らせる ~
環境: 「当たり前」をきちんとやろう!
品質: 提案な自工程保証を徹底させ、
次工程・顧客の要求を満たす一定品質を追求しよう!



富士宮工場の概要

創立	1963年10月16日
所在地	〒418-8666 静岡県富士宮市大中里200番地
主要生産品目	医療及び工業用 X-レイフィルム、プレスケール、写真印画紙用支持体、インクジェットペーパー、太陽電池用保護フィルム、機能性フィルムなど
マネジメントシステム	ISO9001、ISO14001、OHSAS18001 認証取得
2015年度概況	生産金額 637億円 従業員数 1,183人(関連会社含む、2016年3月末時点) 工場敷地面積 358千㎡ 工場建物面積 132千㎡

環境年表

1963年	富士宮工場創立
1975年	富士宮市公害防止協定締結
1996年	ISO14001 認証取得
2001年	ゼロエミッション達成
2007年	PRTR 大賞優秀賞受賞
2011年	産業廃棄物適正処理推進 功労者知事褒章受賞 3R 推進協議会会長賞受賞
2014年	緑化優良工場等関東経済 産業局長賞受賞

環境負荷概要

主要原材料	主要製品
パルプ、PET、ポリエチレン、ゼラチンなど 77,954t	X-レイフィルム、印画紙用支持体など 63,177t
エネルギー	環境成績
重油・灯油 40,441 kl	大気排出 VOC137t、CO ₂ 186,762t、SOx3t、NOx185t
購入電力量 3,497 MWh	排水量 14,810 千 m ³
天然ガス 34,751 千 Nm ³	排水水質 BOD 16t、COD 46t、SS 12t、総リン量 1.7t
水 14,673 千 m ³	一般廃棄物 38t、産業廃棄物 1,061t、有価物率 89%

環境保全活動の概要

大気	各項目とも法令及び富士宮市との公害防止協定の規制値以下でした。
排水	法規制及び公害防止協定より厳しい工場管理基準値を設け、各項目とも基準値以下でした。
ゼロエミッション	単純焼却・埋立ゼロの「ゼロエミッション」を継続しました(2001年以降継続中)。
環境モニタリング	定期的な地下水モニタリングにより、土壌や地下水の水質に問題ないことを確認しました。
PCBの適正管理	低濃度 PCB を含む浚渫物 10,394m ³ を適正に保管・管理し、地下水への漏えいがないことを確認しています。
クレーム	蒸気配管等の設備を発生源とする騒音クレーム(2件)、及び廃棄物の不適切な排出に関する収集運搬会社からのクレーム(1件)があり、いずれも原因を究明して、再発防止策を講じました。

【特集-1】 ~マネジメントシステム統合プログラム「プレミアム・ステージ」認定~

富士宮工場では、1992年にISO9001、1996年にISO14001及び2011年にOHSAS18001を(財)日本品質保証機構(JQA)から認証取得しました。また、安全衛生・環境・品質は整合性をもって進めることが重要と考え、これらの規格を一つに統合した統合マネジメントシステム(IMS)を OHSAS 認証取得と同時に、さらに2015年にはIMSの上位に位置付けられている統合プログラム「プレミアム・ステージ」の認定を受けました。

「プレミアム・ステージ」では、安全衛生・環境・品質のリスクマネジメントに重点を置き、意図した成果を確実に達成し、望ましくない影響を防止・低減すると共に、企業の社会的信頼性、顧客満足及び従業員満足 of 継続的な向上を目指しています。年度初めの方針説明会で工場長の思いや考えを従業員に伝えて浸透させることからスタートし、各組織で課題達成に向けた計画を立てて取り組み、年度末に結果をレビューして次年度の方針や課題に反映させるという、PDCAを回しています。

また、各職場の優れた活動要素を「ベスト・プラクティス・エッセンス」として工場内で横展開する活動、内部監査で相互指摘と意見交換する活動などを通して、業務品質の向上を図りながら、現場力の向上を推進しています。



【特集-2】 ~静岡県立大学 授業来訪~

富士宮工場では環境について、社外の皆さまとのコミュニケーションも大切に考え、(公社)静岡県産業廃棄物協会の視察見学先にエントリーしています。2015年は静岡県立大学食品栄養科学部環境生命科学科の学部生23名、大学院環境科学専攻の学生5名、及び教授以下教員8名の合計36名の方々が、授業の一環として来訪されました。

私たちの環境保全の取り組み説明と意見交換ののち、小集団活動で作成した排水処理工程紹介ビデオをご覧いただきました。また、処理工程のなかでも重要な部分である凝集沈殿操作を、実際の排水を使った実験で実演し、現象を興味深く理解していただきました。その後、処理設備をご案内しました。

見学後のアンケートでは、「これまでよく知らなかった廃棄物処理やリサイクルのことがわかった」「排水浄化に関するメカニズムや具体的な方法を学ぶことができ良かった」「環境への配慮の大切さを改めて感じた」「凝集沈殿の模擬実験ではこれまで講義で教わってきたアニオンとカチオンを用いた架橋形成による沈殿を現実のものとして見ることで良かった」、また、「講義の大切さが改めて分かった」などの声をいただき、私たちにとっても有意義なひとときとなりました。今後も、来訪者の方々にご満足いただけるよう、心掛けて参ります。



環境保全活動

1) 廃棄物削減と3R*推進

生産安定化や徹底した分別回収により有価物化を推進し、継続して廃棄物発生量の削減に取り組んでいます。2015年の有価物化率は89%でした。



図1 有価物と廃棄物の推移

*3R:リデュース・リユース・リサイクル

生産安定化や徹底した分別回収により有価物化を推進し、継続して廃棄物発生量の削減に取り組んでいます。2015年の有価物化率は89%でした。

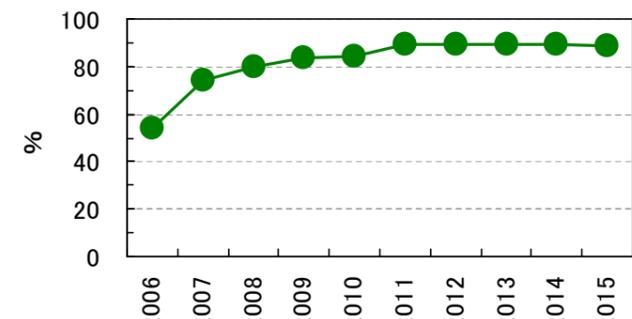


図2 有価物の割合の推移

2)水質汚濁防止

河川放流水の水質は富士宮市との公害防止協定範囲内であることを維持しています。また、敷地内の地下水でもすべての物質が環境基準値内を維持しています。

分析項目	単位	法令 規制値	静岡県 条例値	公害防止 協定値	工場 管理値	実績 〔2014年〕	実績 〔2015年〕
pH(水素イオン濃度)	-	5.8~8.6	5.8~8.6	6.4~8.3	6.4~8.3	6.9~7.9	6.8~7.9
BOD(生物化学的酸素要求量)	mg/l	最大 160 平均 120	30 20	9 6	9 6	3.7 1.4	2.1 1.1
COD(化学的酸素要求量)	mg/l	-	最大 30 平均 20	16 8	13 8	5.2 3.3	5.7 3.2
浮遊物質(SS)	mg/l	最大 200 平均 150	40 20	20 12	5 3	1.3 0.8	2.5 0.8
フェノール類	mg/l	5	-	-	-	<0.5	<0.5
大腸菌群数	個/ml	3,000	-	-	-	1	0
窒素含有量	mg/l	-	-	-	-	2.2	1.6
リン含有量	mg/l	-	-	-	-	0.3	0.1

3)大気汚染防止

大気放出ガスの監視により、富士宮市との公害防止協定範囲内であることを維持しています。

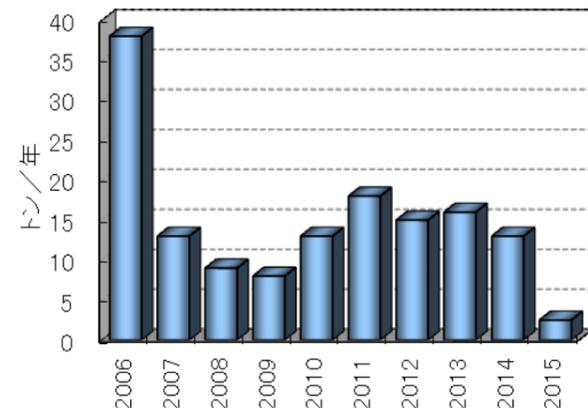


図3 SOx 排出量の推移

※2015年から検出下限界未満はゼロとした

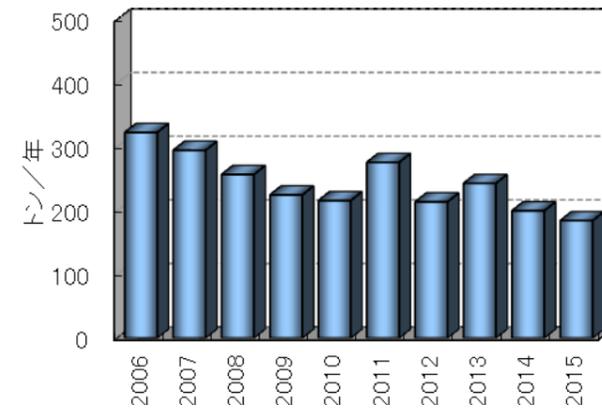


図4 NOx 排出量の推移

4)化学物質の適正管理 ～PRTR対象物質・自主管理対象物質の管理状況～

PRTR法(化学物質排出把握管理促進法)に基づき、人の健康や生態系に影響を与えるおそれがあり、且つ環境中への排出量や移動量が年間1トン以上の化学物質について、行政へ報告しました。

自主管理対象物質も含めた総排出量(大気排出と水域排出)は横ばいでしたが、総移動量(廃棄物)は継続して減少しました。また、土壌への排出は継続してありませんでした。

それ以外の原材料や研究・検査・工程管理用の化学物質についても、労働安全・環境保全・製品安全及び廃棄物管理などの総合的観点からリスクを評価、管理基準を設定のうえ使用するシステムを構築して管理・運用しています。

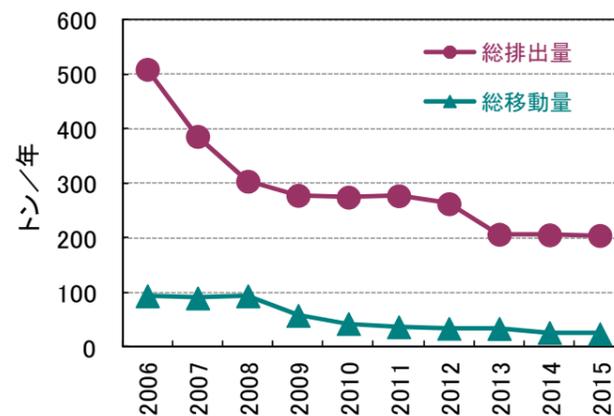


図5 PRTRの推移

労働安全衛生

危険を感じて自分を守り、
危険を伝えて仲間を守ろう!

1)労働災害ゼロへの取り組み

「一人ひとりの安全意識の向上」、「決め事・ルールを守り守らせる」を重点とした安全行動・安全活動の継続推進、労働災害や重大ヒヤリの横展開による類似災害防止、及びリスクアセスメントの対策推進を実施しました。

2)交通加害事故ゼロへの取り組み

通勤途上の加害事故ゼロを目指し、富士宮警察署協働による工場周辺の交通安全立哨、交通事故動画の配信による意識向上、類似交通事故防止のための5つの運転注意事項の制定等の施策を実施しました。

3)心身の健康づくりと職場環境向上の推進

長時間労働がもたらす健康障害の防止、メンタルヘルス予防と早期発見・早期対処、健康増進の支援、及び禁煙の推進等を実施しました。

4)防災対策の推進

排水事故発生時の初動を加えた防災訓練や、全社で連携した富士山噴火対応訓練を行いました。

5)安全教育・講習会・講演会の実施

安全環境大会と交通安全講演会(参加者約300名)、安全講演会(参加者約250名)、交通安全体験車を使った疑似体験(参加者147名)、危険予知トレーニング(KYT)、工具類の取り扱い教育、及び富士宮工場で独自に製作した危険疑似体感設備等により、安全意識や技能レベルの向上を図りました。

6)ワーク・スタイル・イノベーション(WSI)活動による働き方の変革

WSIセミナーなどによる啓発活動、定時退社日の退社時間厳守や社内ネットワークインフラの刷新による業務の効率化等を通じて、働き方の変革を推進しました。



安全環境大会



交通安全立哨



富士山噴火養生訓練

社会とのコミュニケーション

1)工場周辺の清掃(2015年6月1日、参加者約500名)

6月の環境月間に、環境保全意識の高揚のため構内放送によるPRを行い、環境異常発生時の対応訓練、環境関係機器の点検、廃棄物置場の点検と清掃などを実施するとともに、工場周辺道路や潤井川周辺などの清掃活動を行いました。

2)清水川清掃(2015年6月13日、参加者約140名)

従業員と地元大中里地区の方々が力を合わせて構内河川「清水川」の清掃を行い、その後湧水池の畔で昼食をとみながら交流しました。

3)夏祭り(2015年7月31日、参加者約2,000名)

フィルムパークグラウンドで、従業員とその家族のほか、近隣住民の方々にも参加いただき、新人紹介、バンド演奏や模擬店など、大いに盛り上がりしました。

4)富士宮市環境フェア(2015年10月17-18日、来訪者約240名)

富士宮市主催の環境フェアに参加して、工場で使用した水の浄化処理や工場の緑化状況について、現物や写真を使った展示を行い、環境保全活動を紹介しました。

5)大中里地区環境対話集会(2016年2月27日、参加者52名)

大中里地区との共催による環境対話集会を工場内で開催し、環境保全活動を紹介するとともに、地域の皆さまの声を傾けコミュニケーションしました。また当日は、地元中学生と教職員合わせて24名が参加されたこともあり、分かりやすく説明することに努め、評価をいただきました。

6)工場見学受入(通年、来訪者242名)

企業、学校や公的団体など、2015年も大勢の方々に来訪され、環境保全活動の説明、環境・エネルギー関連施設の案内などを行いました。



清水川清掃



富士宮市環境フェア



大中里地区環境対話集会

このレポートに関するご意見・お問い合わせは下記までお願いいたします。

富士フィルム株式会社 富士宮工場 事務部 環境保全課 TEL:(0544)26-7175 FAX:(0544)26-7176

発行:2016年9月 制作:富士フィルム株式会社 富士宮工場